

Satokaida Iseki

里 改 田 遺 跡

杉ノ本地区

1999.11

高知県文化財団埋蔵文化財センター

Satokaida Iseki

里 改 田 遺 跡

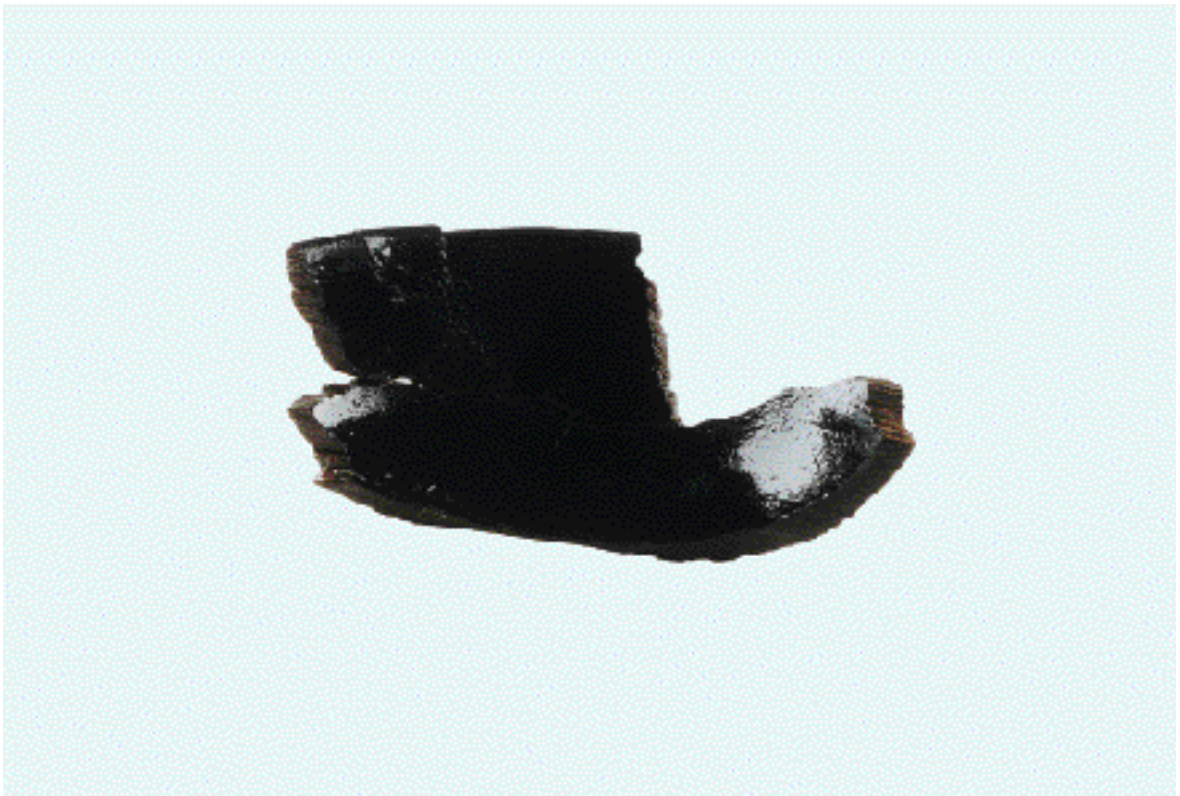
杉ノ本地区

1999.11

高知県文化財団埋蔵文化財センター



漆器碗出土状況



漆器碗

序

里改田遺跡があります高知県南国市は、南四国最大規模の弥生時代集落跡の田村遺跡群、古代では国衙跡・国分寺跡、中世では岡豊城跡などがあり、県内でも中心的な役割を果たしてきた地域です。

今回、報告いたします里改田遺跡は、県道南国インター線改良工事に伴う里改田遺跡の試掘調査およびトレンチ調査で出土したものです。主として弥生時代の集落跡として古くから周知されていましたが、調査では中世の溝で囲まれた屋敷跡が確認されました。小規模な調査でしたが、中世の屋敷跡の様相を提示することができました。この報告書が埋蔵文化財の保護及び考古学研究の一助になれば幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査に際しまして南国市里改田地区の皆様並びに高知県南国土木事務所の埋蔵文化財に対する深い御理解と御協力を賜ったことに心から謝意を表するとともに、発掘作業に従事して下さった作業員の皆様に心よりお礼申し上げます。

平成11年11月

財団法人 高知県文化財団 埋蔵文化財センター

所長 河崎 正幸

例 言

1. 本書は、県道南国インター線改良に伴う里改田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 里改田遺跡は高知県南国市里改田に所在する。
3. 調査は、高知県南国土木事務所の委託を受け、高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施した。
4. 調査期間
試掘調査 平成11年10月5日～平成11年10月7日
拡張区トレンチ調査 平成11年10月12日～平成11年10月15日
5. 調査面積
試掘調査77m² 拡張区トレンチ調査116m²
6. 調査体制
調査員
松田直則（高知県文化財団 埋蔵文化財センター 第五係長）の指導のもと以下の体制で調査を実施した。
試掘・拡張区トレンチ調査 久家隆芳（高知県文化財団 埋蔵文化財センター 調査員）
総務担当
島内信雄（高知県文化財団 埋蔵文化財センター次長兼総務課長）
大原裕幸（同 主幹）
7. 本書の執筆・写真撮影・編集等は久家が行った。
8. 現地調査及び本報告書を作成するにあたり、松田直則氏・吉成承三氏・坂本憲昭氏・池澤俊幸氏・筒井三菜氏・武吉眞裕氏（高知県文化財団 埋蔵文化財センター）をはじめ 高知県文化財団 埋蔵文化財センターの諸学兄に御指導・御教示を賜った。記して感謝する次第である。
9. 発掘現場作業員
作業に従事して下さった皆様に対し、記して感謝の意を表したい。
浜口秀雄 浜田洋
整理作業員
宮地佐枝 飯田 縁 黒岩佳子 澤本友子 橋田美紀 盛田和子
10. 出土遺物については「99 - 14NST」と注記し、関連図面・写真等とともに高知県文化財団埋蔵文化財センターで保管している。

目 次

巻頭カラー

序・例言

目次・挿図目次・写真図版

第 章 調査に至る経過と調査の方法

(1) 調査に至る経過 1

(2) 調査の方法 1

第 章 遺跡周辺の地理的・歴史的環境

(1) 地理的環境 3

(2) 歴史的環境 3

第 章 調査成果

(1) 試掘調査 5

(2) トレンチ調査 6

(3) 出土遺物 7

第 章 まとめ

出土遺物観察表 10

写真図版

報告書抄録

挿図目次

写真図版

Fig. 1 南国市位置図

Fig. 2 TP・トレンチ配置図

Fig. 3 里改田遺跡周辺の主な中世遺跡地図

Fig. 4 TP1柱状図

Fig. 5 TP2断面図

Fig. 6 TP3柱状図

Fig. 7 TP4柱状図

Fig. 8 TP5断面図

Fig. 9 TP6断面図

Fig. 10 Aトレンチ北壁

Fig. 11 Bトレンチ断面図

Fig. 12 AトレンチSD平面図

Fig. 13 出土遺物実測図

PL. 1 調査前風景(北から)・TP1東壁

PL. 2 TP2北壁

PL. 3 TP3東壁・SD完掘状況(南から)

PL. 4 SD完掘状況(南から)・同上(南東から)

PL. 5 出土遺物

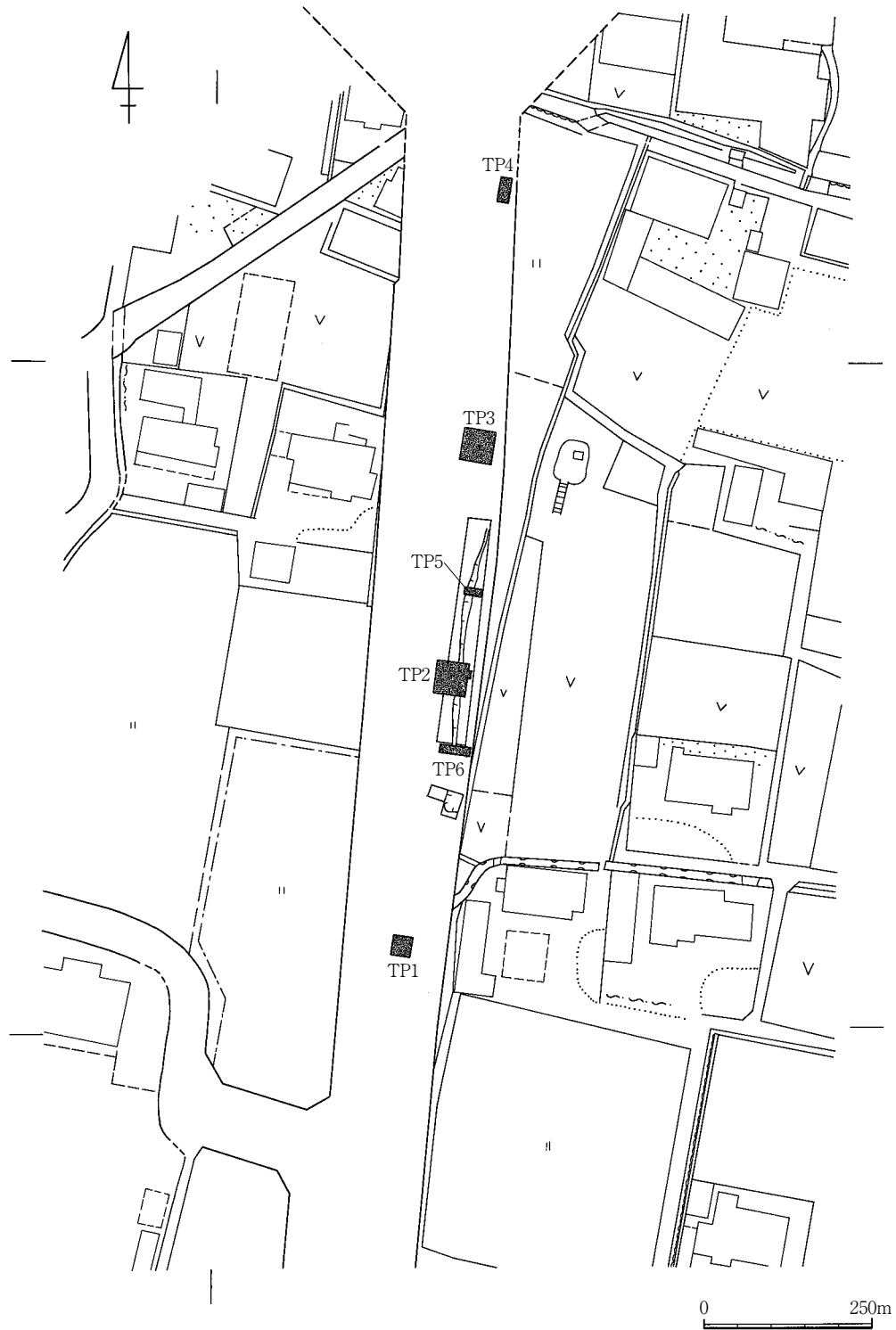


Fig. 2 TP・トレンチ配置図

第 章 遺跡周辺の地理的歴史的環境

(1) 地理的環境

里改田遺跡のある南国市は高知県のほぼ中央部に位置する面積125.35、人口約49,800人の高知県第2の都市である。また、市内には高知空港、高知自動車道の南国インターチェンジがあり、高知県の玄関口でもある。

里改田遺跡のある香長平野は県下では最大規模を有する物部川により形成された扇状地である。北部山地から長岡台地、香長平野と続く。また、香長平野には高天ヶ原山・鉢伏山などの独立丘陵が点在する。里改田遺跡は独立丘陵の一つ鉢伏山の南に位置する。周辺には下田川が流れ、浦戸湾に注ぐ。下田川を挟み北側には五台山・鉢伏山があり、南側にも丘陵が存在する。平野部は北から南に向い標高が下がり、浜堤を越え太平洋の海岸線に至る。里改田遺跡付近は現地表が標高3~4mとやや低い。

(2) 歴史的環境

弥生時代は田村遺跡群に田村前期期の集落が出現してから始まる。その後、田村遺跡群は周辺の中小の集落遺跡と有機的に関連を持ちながら発展を続けるが、後期後半には衰退・解体する。

弥生時代後期終末期から古墳時代前期にかけて長岡台地周辺に集落が営まれる。その後は6世紀後半まで集落跡の様相は明確ではないが、長畝古墳群・県下最大規模の群集墳である舟岩古墳群・高間原古墳群・小蓮古墳・伏原大塚古墳が築造されることから周辺には連綿と集落が営まれていたと考えられる。

古代では国府・国分寺跡・比江廃寺等の施設が設置され文化・政治の中心地である。

中世では岡豊城等の山城の発掘調査に加え、田村遺跡群では溝で囲まれた屋敷跡が31軒見つかっている。田村遺跡群の屋敷跡は期(14~15世紀初頭)~期(16世紀後半)の変遷が明らかとなっている。田村城館は14~15世紀に機能した細川氏の居館跡であり、それを中心に上記の溝で囲まれた屋敷跡が展開する。田村城館は3重の堀を居館の周囲に巡らされていることが発掘調査で明らかとなっている。また、岩村土居城の堀跡は出土遺物から14世紀後半~15世紀前半期に機能していたと考えられる。細川氏入城時の様相が発掘調査により明らかになりつつある。

(参考文献)

『南国市史』南国市教育委員会

『田村遺跡群』高知県教育委員会 1986

三谷民雄『岩村遺跡群』南国市教育委員会 1998.3



遺跡名	種別	時代	遺跡名	種別	時代	遺跡名	種別	時代
1 里改田遺跡	集落跡	弥生～近世	15 カラツ池遺跡	散布地	中世	29 丸山五輪塔	古墓	中世
2 高柳遺跡	集落跡	弥生～近世	16 中内土居城跡	城館跡	中世	30 片山土居城跡	城館跡	中世
3 高柳土居城跡	城館跡	中世	17 下田土居城跡	城館跡	中世	31 里改田土居城跡	城館跡	中世
4 佐岡土居城跡	城館跡	中世	18 細川土居城跡	城館跡	中世	32 三ツ城城跡	城館跡	中世
5 影山城跡	城館跡	中世	19 栗山城跡	城館跡	中世	33 蛸の森城跡	城館跡	中世
6 林田遺跡	集落跡	弥生～中世	20 小籠土居城跡	城館跡	中世	34 中ノ城跡	城館跡	中世
7 林田城跡	城館跡	中世	21 上野田土居城跡	城館跡	中世	35 蚊居田土居城跡	城館跡	中世
8 加茂城跡	城館跡	中世	22 包末土居城跡	城館跡	中世	36 田村遺跡群	集落跡	縄文～近世
9 烏ヶ森城跡	城館跡	中世	23 金地土居城跡	城館跡	中世	37 田村城跡	城館跡	中世
10 津野親忠墓	古墓	中世	24 岩村土居城跡	城館跡	中世	38 千屋城跡	城館跡	中世
11 白川城跡	城館跡	中世	25 野田土居城跡	城館跡	中世	39 城八幡城跡	城館跡	中世
12 高田山城跡	城館跡	中世	26 徳弘土居城跡	城館跡	中世	40 深淵北城跡	集落跡	弥生～中世
13 秋葉山城跡	城館跡	中世	27 立田土居城跡	城館跡	中世	41 深淵遺跡	集落跡	縄文～近世
14 前ノ山城跡	城館跡	中世	28 八木土居城跡	城館跡	中世	42 深淵城跡	城館跡	中世

Fig. 3 里改田遺跡周辺の主な中世遺跡地図

第 章 調査成果

(1) 試掘調査

TP2・TP5・TP6の調査結果から落込みの方向についてはほぼ明確になった。この落込みの東に隣接して土塁の痕跡が認められる点、周辺には長宗我部地検帳では「二ノ堀」、「三ノ堀」という地名

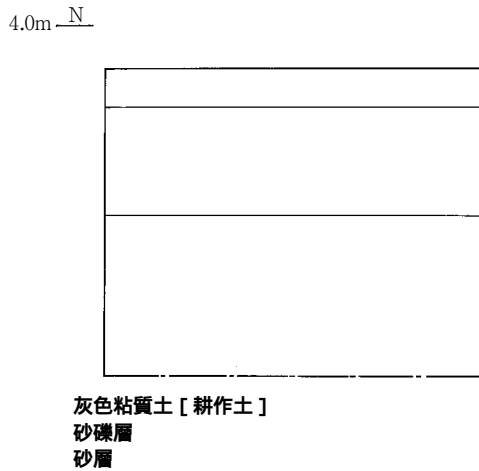


Fig. 4 TP1柱状図

がみられる点等から、溝跡は屋敷の周囲に巡らされた溝跡である可能性が考えられる。出土遺物が少なく時期については明確にすることはできなかった。そこで溝跡の延長方向およびその性格を明らかにする目的で新たにトレンチを設定することになった。以下では各TPの調査成果について述べる。

TP1は調査対象地南部に設定したテストピットである。表土及び床土を除去するとすぐ砂礫層であった。

TP2は調査対象地中央部に設定したテストピットである。東方向に下がる落ち込みの肩部を検出した。落ち込みの規模を確認する目的で一部テストピットを東方向に約1.3m延長したが、東へさらに落込み東の肩部は検出できなかった。落込みの埋土は下から腐食土、

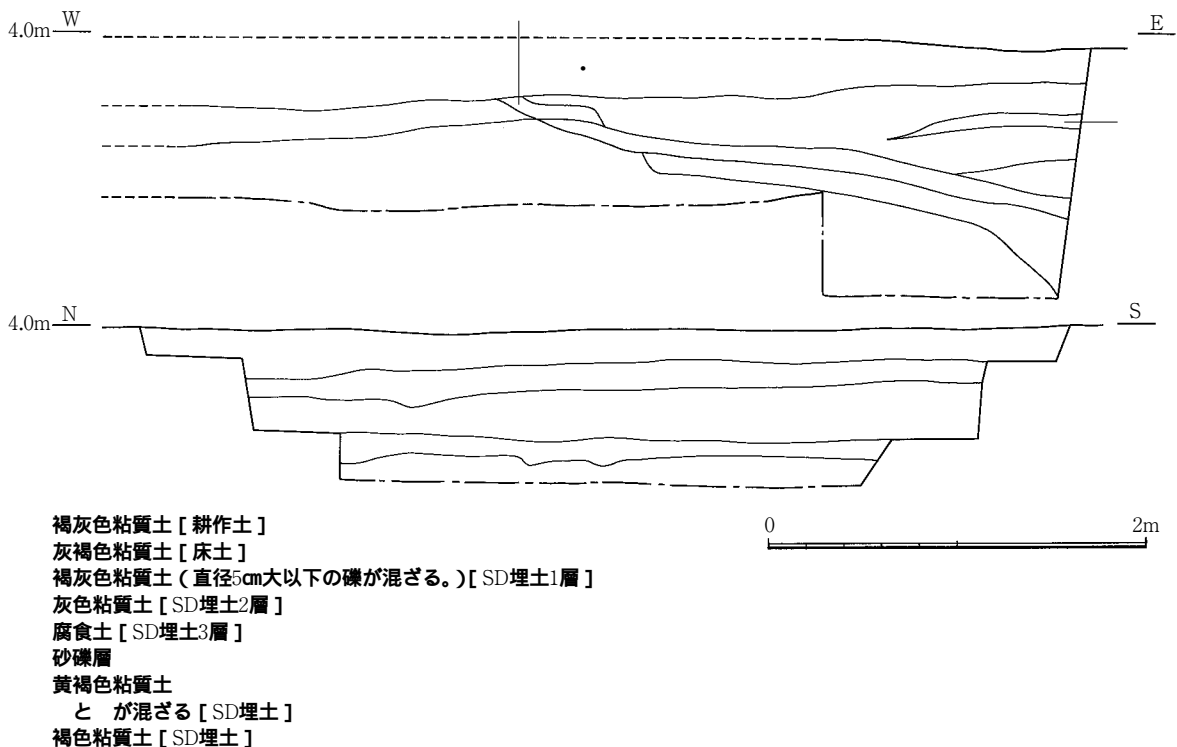
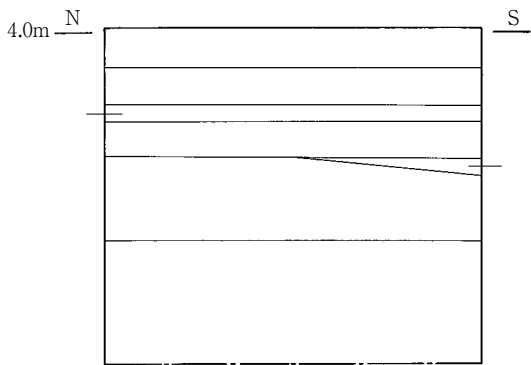
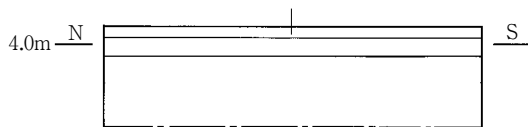


Fig. 5 TP2断面図



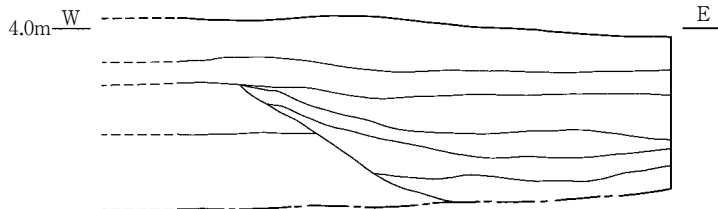
褐灰色粘質土 (直径5cm大以下の礫が混ざる。)[耕作土]
 褐色粘質土 (直径5cm大以下の礫が混ざる。)[床土]
 褐灰色粘質土 (直径5cm大以下の礫が混ざる。)
 褐灰色粘土 黄褐色砂層
 灰色砂礫層 黄橙色砂礫層

Fig. 6 TP3柱状図



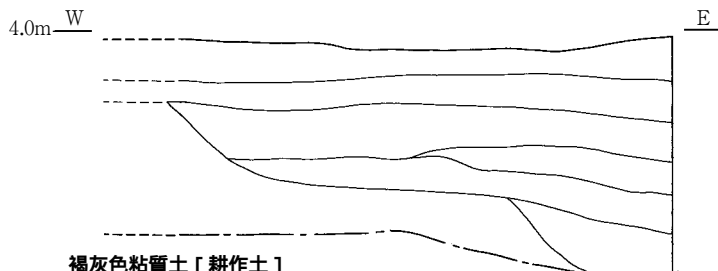
褐灰色粘質土 (直径5cm大以下の礫が混ざる。)[耕作土]
 褐色粘質土 (直径5cm大以下の礫が混ざる。)[床土]
 砂礫層

Fig. 7 TP4柱状図



褐灰色粘質土 [耕作土]
 褐色粘質土 (直径5cm大以下の礫が混ざる。)[床土]
 灰褐色粘質土 (直径5cm大以下の礫が混ざる。)[SD埋土1層]
 褐灰色粘質土 (直径5cm大以下の礫が混ざる。)[SD埋土1層]
 灰白色粘土 [SD埋土2層] 腐食土 [SD埋土3層]
 黄褐色粘質土 砂礫層

Fig. 8 TP5断面図



褐灰色粘質土 [耕作土]
 褐色粘質土 (直径5cm大以下の礫が混ざる。)[床土]
 灰褐色粘質土 (直径5cm大以下の礫が混ざる。)[SD埋土1層]
 上層: 腐食土・下層: 灰白色粘土 [SD埋土]
 灰白色粘土 [SD埋土2層] 腐食土 [SD埋土3層] 砂礫層

Fig. 9 TP6断面図

粘土層、礫を含む粘質土の順で堆積していた。出土遺物は大部分が細片で礫を含む粘質土から出土した。

TP3は調査対象地中央部、TP2の北側に設定したテストピットである。現地表から約0.7m掘削すると砂礫層に達した。

TP4は今回設定したテストピットのなかで最も北側に設定したテストピットである。現地表から約0.3m掘削すると砂礫層に達した。

TP5はTP2で検出した落込みの方向を確認する目的で設定した小テストピットである。TP2で検出した落込みと同様の落込みを検出し、その方向を確認することができ、少なくともTP5のあたりまで落込みはのびていることが明らかとなった。

TP6はTP5とともにTP2で検出した落込みの方向を確認する目的で設定した小テストピットである。TP5と同様、落込みを確認した。

以上の結果に基づきTP2～TP5を中心とする範囲にトレンチを設定し発掘調査を実施した。

(2) トレンチ調査

基本層序はAトレンチ北壁で観察を行った。(Fig. 10) 層は現在の耕作土及び床土である。他の箇所では耕作土と床土は明瞭に分層できるが、Aトレンチ北壁では不明瞭であった。層は灰褐色粘質土である。溝跡はこの層を切り込んで形成されている。層は暗褐色粘質土である。既往の調査では包含層として認識されていたものであるが遺物はほとんど出土しなかった。

層は黄褐色粘質土である。層から層は溝跡埋土である。

TP2・TP5・TP6にかけてAトレンチ

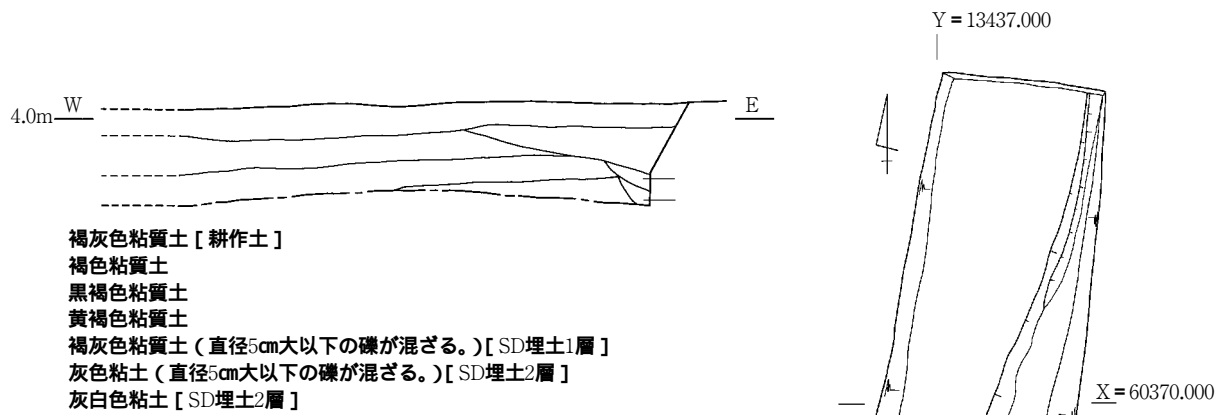


Fig.10 Aトレンチ北壁

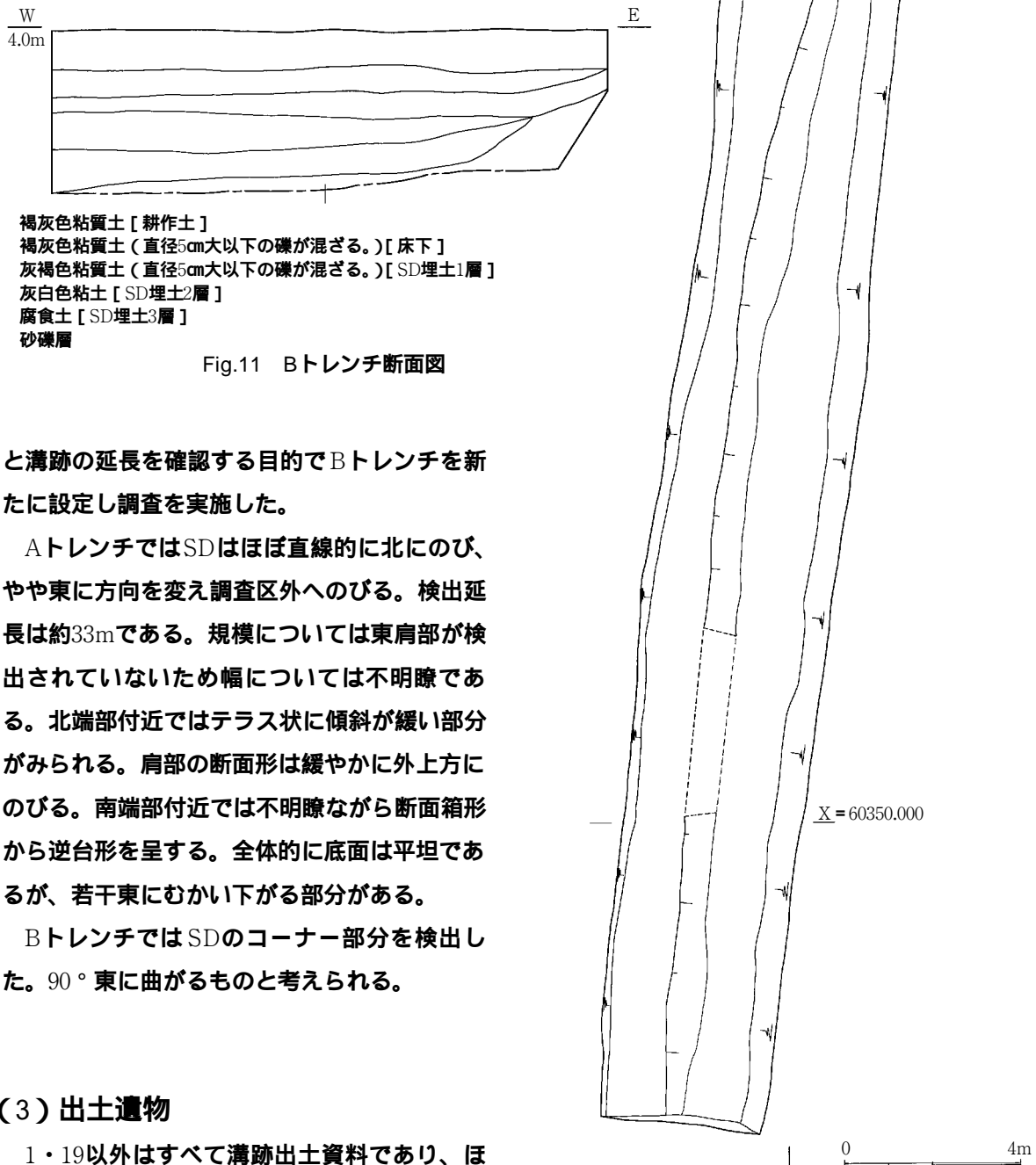


Fig.11 Bトレンチ断面図

と溝跡の延長を確認する目的でBトレンチを新たに設定し調査を実施した。

AトレンチではSDはほぼ直線的に北にのび、やや東に方向を変え調査区外へのびる。検出延長は約33mである。規模については東肩部が検出されていないため幅については不明瞭である。北端部付近ではテラス状に傾斜が緩い部分がみられる。肩部の断面形は緩やかに外上方にのびる。南端部付近では不明瞭ながら断面箱形から逆台形を呈する。全体的に底面は平坦であるが、若干東にむかい下がる部分がある。

BトレンチではSDのコーナー部分を検出した。90°東に曲がるものと考えられる。

(3) 出土遺物

1・19以外はすべて溝跡出土資料であり、ほとんどが溝跡埋土1層から出土したものである。

Fig.12 AトレンチSD平面図

13世紀・14世紀・16世紀の3時期のものと考えられる。

1は土師質土器の杯である。溝跡の肩部である基本層序 層 (Fig. 10) から出土したものである。横転した状態で検出された。遺構に伴う可能性も考えられたため掘り方を精査したが検出することができなかった。口縁部は底部から直線的にのびる。底部外面には糸切り痕跡が残る。口径11.0cm、器高3.4cmである。2は漆器碗である。溝跡埋土3層からの出土である。溝跡埋土3層から出土したものが他にはなく詳細な時期決定は難しい。3は土師質小皿である。口縁部は底部から垂直気味に短く立ち上がる。4は溝跡埋土1層から出土した土師質土器の皿である。溝跡埋土1層からの出土である。7は溝跡埋土1層から出土した黒色土器である。高台は比較的シャープなつくりである。胎土は精良で、雲母片を含む。搬入品と考えられる。8は溝跡埋土1層から出土した土師質土器の杯である。内面には口ク口目が残る。10は溝跡埋土1層から出土した龍泉窯系の青磁碗である。溝跡埋土1層からの出土である。11は瓦質の鍋である。13は溝跡埋土1層から出土したふいごの羽口である。15は溝跡埋土1層から出土した不明鉄製品である。16は溝跡埋土1層から出土した播鉢である。17は溝跡埋土1層から出土した煙管の吸口である。18は溝跡埋土1層から出土した備前の播鉢である。19は畿内系の古式土師器である。基本層序 層から出土したものである。20は土師器の高杯である。

以上の他にも図示はできなかったが、染付片、瓦器碗片、天目茶碗片、須恵器体部片等が出土している。

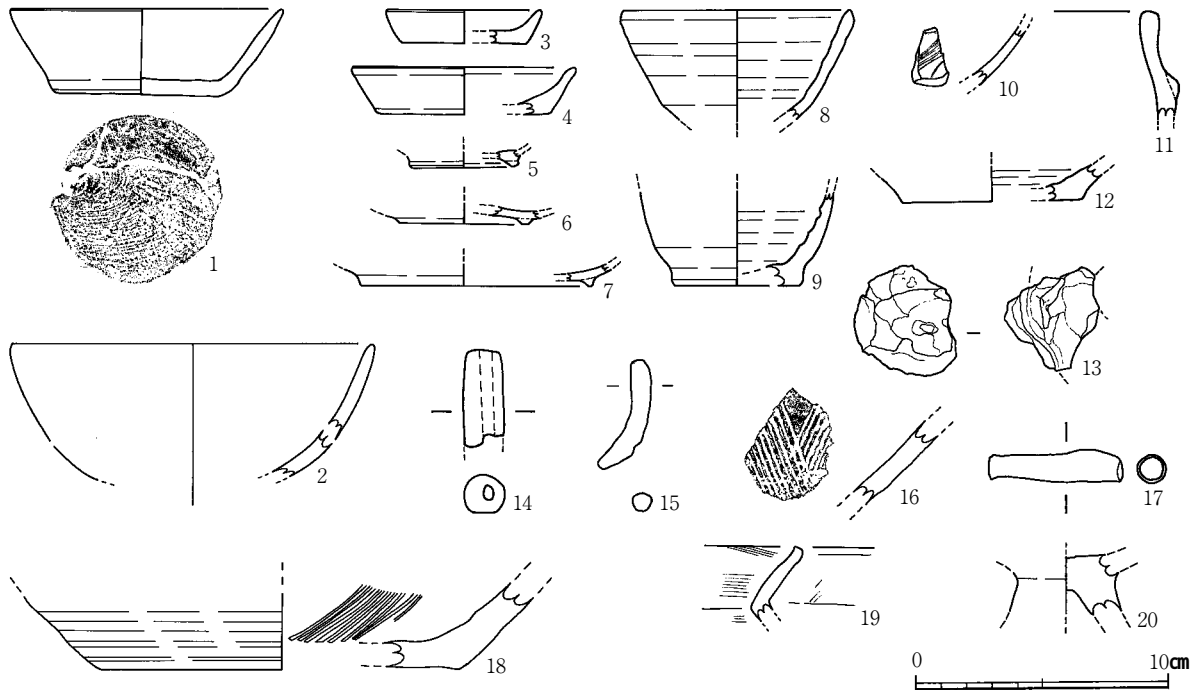


Fig.13 出土遺物実測図

第 章 まとめ

今回の調査で検出された溝跡の性格について少しみていくことにする。溝跡埋土1層から13世紀から16世紀のものが主として出土しており、この溝跡は中世の段階に機能していたと考えられる。そこで16世紀末に作成された『長宗我部地検帳』で調べると調査区は長岡郡蚊居田村杉本にあたり、上々ヤシキが存在していたことがわかる¹。

年代	遺跡名	所在地	特徴
13世紀	田村遺跡群	長岡郡蚊居田村杉本	中世の段階に機能していた
14世紀	田村遺跡群	長岡郡蚊居田村杉本	中世の段階に機能していた
15世紀	田村遺跡群	長岡郡蚊居田村杉本	中世の段階に機能していた
16世紀	田村遺跡群	長岡郡蚊居田村杉本	中世の段階に機能していた
17世紀	田村遺跡群	長岡郡蚊居田村杉本	中世の段階に機能していた
18世紀	田村遺跡群	長岡郡蚊居田村杉本	中世の段階に機能していた
19世紀	田村遺跡群	長岡郡蚊居田村杉本	中世の段階に機能していた
20世紀	田村遺跡群	長岡郡蚊居田村杉本	中世の段階に機能していた

14世紀から17世紀にかけての「ヤシキ」については田村遺跡群の調査により溝跡で区画されていたことが明らかとなっている²。

以上のことから里改田遺跡杉本地区で検出された溝跡は屋敷の周囲を巡る溝跡の一部と考えられ、溝跡はBトレンチで東方向に曲がることを考慮にいれると建物跡は調査区より東に存在するものと推定される。

註1) 高知県立図書館 『長宗我部地検帳』(長岡郡上) 1962

註2) 松田直則 6.中～近世小結 『田村遺跡群』第10分冊 高知県教育委員会 1986

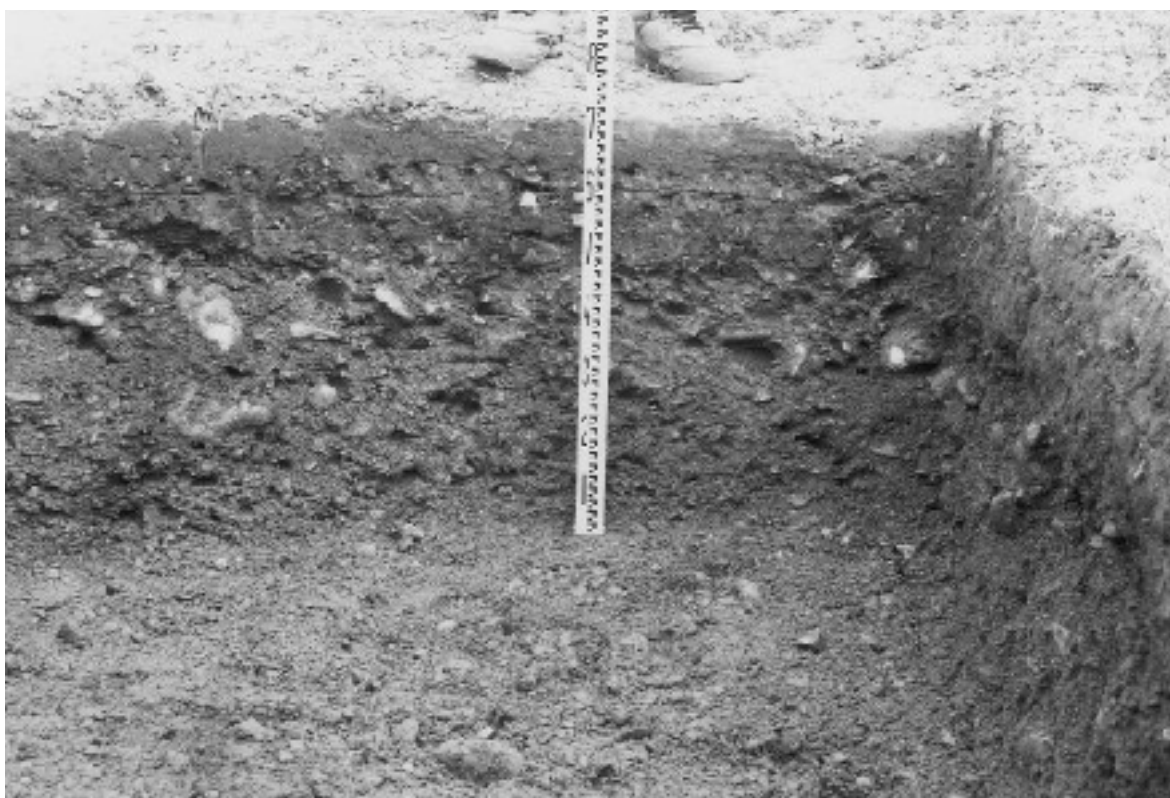
出土遺物觀察表

図版	器種	器形	層序	法量(cm)			備考
				口径	器高	底径	
1	土師質土器	杯	基本層序 層	11.0	3.4	7.0	底部糸切り
2	漆器	椀	SD埋土3層	(14.2)			
3	土師質土器	小皿	表採	(6.2)	1.3	(5.0)	
4	土師質土器	皿	SD埋土1層	(9.0)	1.9	(7.0)	
5	土師質土器	椀	SD埋土1層			(4.0)	
6	瓦器	椀	SD埋土1層			(5.0)	
7	黒色土器	椀	SD埋土1層			10.0	
8	土師質土器	杯	SD埋土1層	(9.0)			
9	須恵質土器	杯	SD埋土1層			(4.9)	
10	青磁	椀	SD埋土1層				
11	瓦質土器	鍋	表採				
12	土師質土器	杯	表採			(7.2)	底部糸切り
13		羽口	SD埋土1層				
14	土師質土器	土錘	SD埋土1層	残存長3.8	最大幅1.7		
15	鉄製品	不明	SD埋土1層	全長4.3	全幅0.8	重量3.9g	
16		摺鉢	SD埋土1層				
17	金属製品	吸口	基本層序 層	全長5.4	最大幅1.2		
18	備前	摺鉢	SD埋土1層			(14.1)	
19	土師器	甕	基本層序 層				
20	土師器	高杯	SD埋土1層				

写真図版



調査風景（北から）



TP1 東壁

PL.2



TP2 北壁



TP2 北壁



TP3 東壁



SD完掘状況(南から)

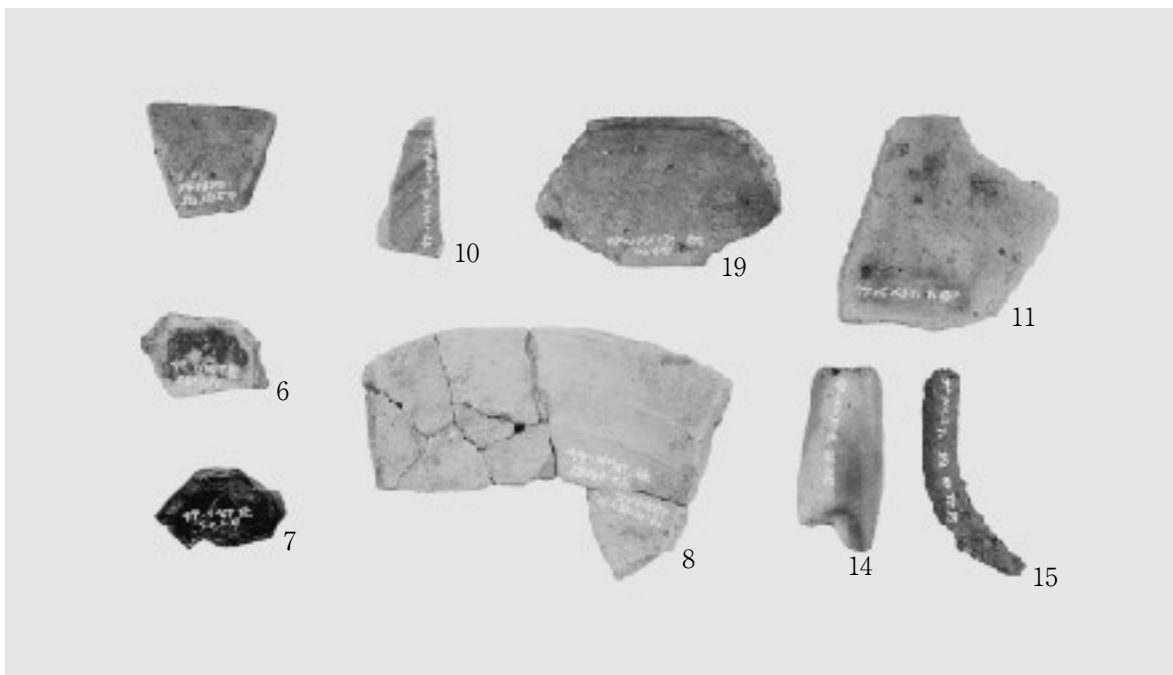
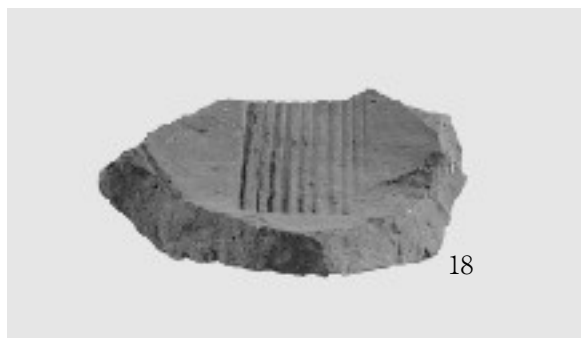
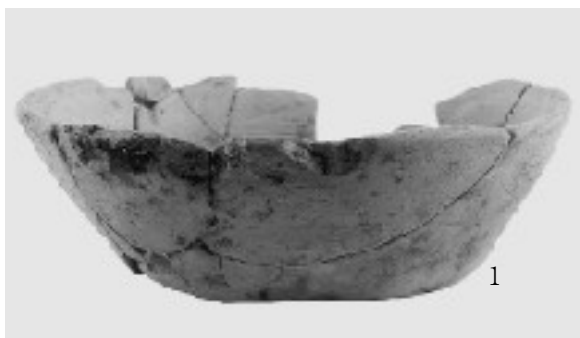
PL.4



SD完掘状況（南から）



SD完掘状況（南東から）



(同上外面)

出土遺物

ふりがな	さとかいだいせき すぎのもとちく							
書名	里改田遺跡 杉ノ本地区							
副書名	県道南国インター線改良工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書							
巻次	2							
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第44集							
編著者名	久家隆芳							
編集機関	高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	〒783 - 0006 高知県南国市篠原南泉1437 - 1 TEL(088 - 864 - 0671)							
発行年月日	1999年11月9日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 。	東経 。	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さとかいだいせき 里改田遺跡	こうちけんなんこくし 高知県南国市 さとかいだい 里改田	39204	040267	33° 32 40	133° 38 40	平成11年 10月5日 ~ 平成11年 10月15日	193㎡	南国インター線改良工事に伴う
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
里改田遺跡	溝で囲まれた屋敷跡	中世	溝跡	土師質土器 青磁 黒色土器 瓦器 漆器 須恵器 古式土師器				

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 44 集

里 改 田 遺 跡

- 杉ノ本地区 -

1999年11月

編集 高知県文化財団 埋蔵文化財センター

発行 高知県南国市篠原南泉 1437 - 1

Tel. 088 - 864 - 0671

印刷 共和印刷株式会社

